

追悼

笹渕 茂氏 (昭和21年冶金科卒)

東京秋工会顧問 を偲んで

笹渕茂顧問に最初にお会いしたのは、約30年前になる。当時、笹渕さんは、東京秋工会の副会長と首都圏男鹿の会の副会長であった。私は建設会社で関西方面の仕事を終え、東京に転勤したのがその時期に当たる。

笹渕顧問は、船川小学校、船川中学校、秋田工業高等学校の先輩で生家も近所であり、かつ、日本鉱業船川製油所勤務が長く、その後東京に転勤されたので、秋田弁のなまりがきつく、堂々たる方言の使い手でもあった。

東京秋工会会報「KANASA」に連載エッセイを投稿され色々な話題を提供された。その一部を以下に紹介します。

VOL2、《サムライH君のご先祖は秋田藩主佐竹氏の重臣であった。あるときH君がS先生の怒りに抵抗したその発想は、S先生の先祖はH君の先祖の家来だった。家来に頭を下げる「バカ」がいるか、H君の発想は単純明快であった。》と武勇伝を伝えている。

VOL7、《秋田人は鎌田(カマタ)・原田(ハラタ)・渡部(ワタナベ)といい、東京では鎌田(カマタ)・原田(ハラタ)・渡部(ワタベ)と読む。また、男鹿市内の地名を金川(カネガ)・船川(フナガ)・増川(マスカ)・女川(オナガ)、川を「ガ」と発音、沢のことを「ジャ」と郷土の発音》を紹介している。

VOL14、《定年を迎えて、北海道に125ccのバイクで単独旅行中に工事中の道路で転倒、肋骨3本骨折し、コルセットで固定しながらの旅で金駒内地区に差し掛かった所でバイクが故障、通りかかった建設会社の出張所長が、20km離れた修理店までバイクを運んでくれた。お礼に一献差し上げるべくお誘いしたら、またまたご馳走になった。》

VOL17、《試験でヤマをかける金属にはイオン化傾向という化学反応を起こしやすい序列がある。「K、Na、Ba、Sr、Ca、Mg、Al、Mn等」の順で20種類の金属のイオン化傾向(強弱の順位)を、暗記するためのこじつけ覚えの方法がある。同様に富士五湖を「山中、風下」、つまり「山中湖・(か)河口湖・(ざ)西湖・(し)精進湖・(も)本栖湖。これで富



士五湖の呼称を順を追って覚える、「ヤマをかける」延長線で暗記している。》

昭和21年冶金科卒業までの同級生の学ぶ姿勢、先生方の教育方針、学校の行事等を詳細に紹介し、生まれ故郷の「男鹿市船川」(フナガ)の方言、秋田県民歌、船川第一尋常小学校の校歌の作曲家成田為三について、趣味「音楽」を自認する笹渕顧問らしい見識を述べている。

また、定年後の旅行、自転車です内散策、100回に及ぶ富士山周辺のドライブと色々な角度から述べられたエッセイを「KANASA」の創刊号から17号まで17年の長期にわたり投稿するとともに、会報文章の査読・指導も併せて担当されました。また、笹渕茂元首都圏男鹿の会会長は、30年前の会の設立発起人として会の設立にあたり、設立後は副会長10年、会長6年務められた。

会長就任挨拶の中で、《大学生になったのに伴い、女の子が上京し、自炊を始めた。それから数か月後、どうも体の調子が悪い。近くのお医者さんに診てもらったところ、どうやら肝臓が冒されているらしいということがわかった。

しかしその原因が分からないまま日が経った。医師がある日、生活上のいろいろなことを聞いてみた。そこで出てきたのが意外な事実。なんと、その娘さんは、コメを毎回「洗剤で洗っている。」ということが分かった。

田舎では、すべて母親任せの女の子。地方出身者に限らず、都会でも、現代の娘さん達は大人小なり、親任せの生活を送っているのではないだろうか。

医師の指示で、その後は水によるコメ研ぎに切り替え、この娘さんは元の健康を取り戻すことが出来た。こうした不思議な発想を、現代社会の一つの縮図として捉えられてよいものかどうか、考えさせられることではある。

今回、はからずも会長を仰せ使った私だが、前述のような破天荒な事象に陥らないよう、心したい》と述べておられる。

その後顧問として後進の指導に当たられました。小生も長きに渡り、笹渕顧問に指導を受け、第6代目の首都圏男鹿の会会長として先輩の意志を継いで会の継続発展に微力ながら力を注いでいます。

笹渕顧問のご冥福をお祈りします。 合掌。

小野 鐵雄 (昭和38年土木科卒)
東京秋工会 監事

ありし日の笹渕さん



70周年記念総会(2010年)に奥様と出席された笹渕さん(右)



70周年記念総会(2010年)で表彰(左から2人目)